

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 吉田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知りたいとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

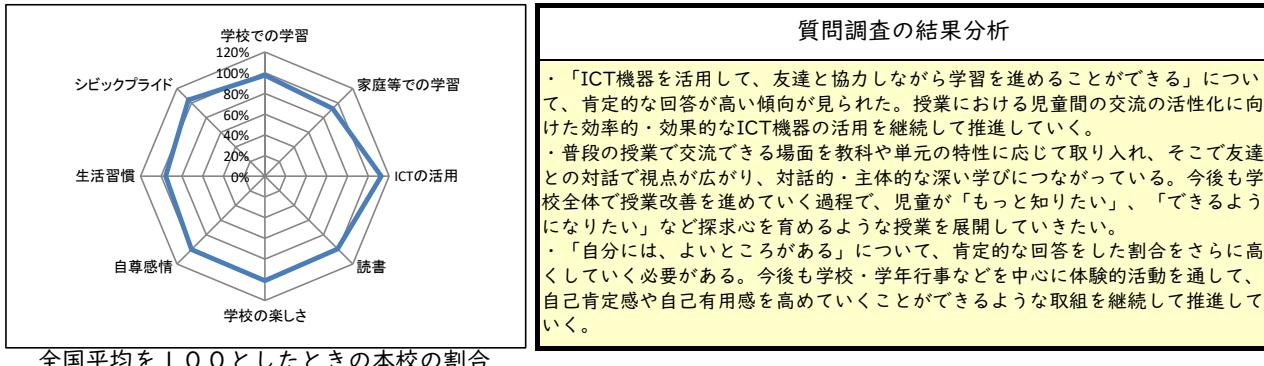
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	相手の話の内容を理解しながら聞き、根拠をもとに話すことができるよう授業の中で取組を行っていく。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「言葉の特徴や使い方に関する事項」・「書くこと」	下回っている
	努力が必要な問題	「話すこと・聞くこと」	
算数	全体的な傾向や特徴など	基礎的な問題の反復練習を行ったり、授業の中で実際に図形に触れる機会を多くしたりする取組を行っていく。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「測定」	下回っている
	努力が必要な問題	「数と計算」「図形」「変化と計算」	
理科	全体的な傾向や特徴など	実感を伴う実験と主觀から客觀へ視点を変えられるような指導や取組を行っていく。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「エネルギーを柱とする領域」	下回っている
	努力が必要な問題	「地球を柱とする領域」	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 本校では3年間継続して「読み取る力」を付けさせることに重点をおいて授業改善に取り組んでいる。「読み取る力」から相手に伝わるような表現力をブラッシュアップするための取組。
- 教科や単元の特性に応じたICT活用を継続して推進しながら、情報活用能力やネットリテラシーの育成に向けた取組。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 授業とリンクした個に応じた課題を工夫しながら、家庭学習の質と量の充実に向けた取組。
- スマホ・携帯電話の安全で安心な利用のための、委員会活動を活用した定期的な啓発活動。
- 「気軽に本、身近に読書」の定着に向けての、内読（家庭読書）やミニ図書館の充実など読書活動推進の取組。